

事件前

映画「A2-B-C」イアン・トーマス・アッシュ監督インタビュー 5分30秒

<https://www.youtube.com/watch?v=yJWcp-vC6v0>

映画『A2-B-C』予告編 2分

<https://www.youtube.com/watch?v=Kp-AjFjifUg>

映画「A2-B-C」を見ての感想 1分43秒

<https://www.youtube.com/watch?v=PcOrDUPNHpE>

世界から福島へ：「忘れていません」 14分59秒

<https://www.youtube.com/watch?v=3e3UVRu5X8E>

Documenting Ian

2014/05/05 に公開

Messages to the mothers and children living in Fukushima from people all over the world who watched the documentary film 'A2-B-C'.

Japanese subtitles: Horio Kinue

'A2-B-C' WEBSITE

English: <http://www.a2documentary.com/>

日本語: <http://www.a2-b-c.com/>

Trailer: <http://youtu.be/ZD9yGONdEUU>

予告編: <http://youtu.be/6xLwVc-V1RU>

Messages from 'A2-B-C' World Premier in Germany:

<http://youtu.be/BBT1bM01qtE>

映画「A2-B-C」上映中止

documenting ian, blog 2015.3.14 <http://ianthomasash.blogspot.ca/>

イアン・トーマス・アッシュ監督の3月14日付けのブログ記事

監督のツイッターでは、近いうちに詳しいことをブログに上げる、とのことでした。

翻訳 (わだ)

検閲？自己検閲？

配給会社都合により、急遽「A2-B-C」上映中止せざるを得なくなりました。

福島に住む子どもたちについての私のドキュメンタリー「A2-B-C」の日本の配給会社が、この作品のすべての上映を中止しました。さらに、契約期間が2年以上残っているにもかかわらず、日本での配給契約はキャンセルされてしまいました。



この決定が、どこまで実際の検閲の結果なのか、どこまで自己検閲によるものなのか、私にはよくわかりません。将来的に検閲の問題が起こる恐れがあるということによる自己検閲なのではないか、という気がします。もしそうなら、秘密保護法の恐ろしい、広範囲に及ぶ影響の一例ということになります。この法律の影響を感じさせるには、施行することは必要ではありません。この法律があるというだけで、人々は自己検閲をして、法案を作った連中が思い描いていたとおりの弾圧を自らに対してするのです。

言論の自由は？

福島で起こっていることについて、うそのない、オープンな議論をすることは、もう不可能です。

そして、「A2-B-C」の国内での上映が全部キャンセルされてしまったことは、日本の言論の自由を蝕んでいる病の症状でしかありません。

配給会社は、この週末に予定されていた全国5箇所（佐賀、伊豆、大阪、長野、三重）での上映会は実施することを認めました。3月16日以降に予定されていた上映は全部キャンセルされました。昨日、私が飛行機で移動している間に、配給会社は、キャンセルにした全部の上映会の主催者に連絡をとってしまいました。

3月16日以降「A2-B-C」上映全て中止になりました。

私は、今日の長野での2回の上映に参加することにしていましたが、配給会社からは、その場で初めて、上映中止についての公のお知らせをするように言われました。上映会の参加者の中にいた2, 3人のジャーナリストをよんで、Q&Aの時間を、急遽記者会見にします。

この文章をブログにアップしている今、手が震えています。私のこの映画が日本で上映される最後の機会となる今日の、ここ長野での上映では、上映後のトークが2回ありますが、その一回目のトークのために、これから舞台に出て行こうとしているところです。

自分がトークで何を言うかわかりません。でも、私を黙らせようとする企みがあって

も、それは、私にますます大きな声を上げさせる結果になるだけのことだ、ということは、確信を持って言うことができます。

原文英語→<http://ianthomasash.blogspot.ca/>